

1976.11.5

東京蜘蛛談話会

10月10日、八柱霊園での観察採集会には、以下の方々が参加し、ケボウアモをみつけ、そのこしかけアモ網などの観察をしたりして、盛会でした。詳細は、権田重雄氏(当日実行委員)によつて、KISHIDAIA誌上に紹介されます。

当日参加者(昼食時の自己紹介順)。
高野伸二・高橋米夫・佐藤幸子・熊田豊一・梅林カ・新海栄一・田中理恵・松本誠治・古矢隆・高橋登・並木敏一・小澤康樹・笠原須磨生・石山鉄幸・嶋田順一・吉田貞元 下村和秀(敬称略)。

以上19名。

前日の雨はウソのように晴れど、格別の観察会日知で、ピーティングも(曇参の人には気がねしなからず)を果しました。ピーティングではネコアモが大分入りました。

10月12日の通信で、笠原氏より、上記観察採集会に参加された時の感想を寄せられましたので、ご紹介します。

「拝読、先日の採集観察会ではお世話になりました。…… 駅で降りるくに、待った下った真ん中を認め、生つたお師匠さん道であり、また友人ともなつた下つた方々でありとがわかりました。採集観察会は、これ等の念誌、通信等々想像していた通り、実に好しい雰囲気、楽しい会合でした。おかげで、大層勉強になりました。これからもうかよしくと、下つた。…… 通信誌全通信は、これにしようとして、KISHIDAIA誌

受取……あります。——後略——

通信の愛読者が一人でも増えたいのほうれいことです。ほんとうに。

KISHIDAIAの編集担当者がNo.41から代りました。前担当者がドイツへ留学してしまつたので、No.41からは、すてにお知らせした方に、熊田山、西氏に多忙中にもかかわらず、手数をかけてもらうことになりました。…… 地理的なことあり、印刷所も変更するこゝになり、このために、KISHIDAIAの体裁や投稿規定が若干かわるようになります。何か大幅にかわるといへば、やはり、印刷費のほうですか、これは、上記西氏と、田中理恵氏の努力で、印刷所を改得している最中です。

9月23日の運営委員会での討議承認された投稿規定は、印刷所とのかねあいから、次のような方向のものとなります。全文は、追つてお知らせします。

- ・ 6頁以上(厚紙)にわたる場合は著者負担(従来通り)。(7頁目から)
- ・ 6頁以内でも、図版については、著者負担を考へる。

実際はあまりにむづかしいとか、印刷局のほうで、財政面での援助をいもらないといふことである。思ひます。

KISHIDAIA No. 41

投稿募集

急募!!!

〒100 東京都千代田区千代田 3-3-3 丸の内ビルディング 3F 丸の内ビルディング 3F 丸の内ビルディング 3F

クモヒナマズのかんが

むかしは田に水を当てるんに入れるのに井手(いね=流水調節のせき)をこしらえて存あ。シバをずっと置いといて、そこに石をいっばい置いといて、そこから山の隙(きわ)の水を引くように存あ。ほんで、むかしは存あ。井手ちゅうもんがようけいあったんですめ。

今はもうそんな存あなけい。そこに存あ、クモが、くわあつと生え繁ったとこに、大生存大生存豊八枚敷さくらいの大生存クモが、その井手の主で、そこに年若う佳人じ、たんや。それから、またもう一つ下の井手に存あ、ナマズが自分をもようてん運れて大生存大生存ナマズが存あ、その井手の主であつたや。むかしの話で存あ、深い深いとこに、ナマズが手下あいっばい運れて住まいして存あ。クモがクモで自分もいっばい運れて、泉の井手のがあつたかぶさつととこに、大生存た。

そのクモヒナマズとかが存あ、仲悪うて(しゃあ)うて(仕方)な(て)存あ、ほんで、その土地の争いおとよう存(おた)存(も)んや存あ。ほんでクモが細強つて、下へちつとも水をやらんようにするや、存すと、下の方でナマズが水が無かつた、嘴中が浮くもんやけい、クモも退治せんたら自分らば、せんじ(欠々)ナマズは増えてくる存り、子が出来、子が出来して、しゃあちゅうとこに存あ、とととそれらがけんかして、もうナマズの方が腕力が強いが、ほんでクモがとて、もう負けるんに入っている。けんかせん存らんとこに存あ。

ほんで「明日いよいよけんかせん存らんて、どうしてちゅうたら「ほん存らん上の岩右衛門さんの家へ行つて、助太刀を頼んでこい」ちゅうとこに存あ、クモがせいで(それで)人間に化けて、へて、その家い庭ざり(庭の驚味)打つ存あ。ほいで、「二の下に住むわしはクモの主やで、せえやけい、明日の晩ナマズが攻めてくるとこに存あ、どうぞ助太刀をしてほしい。助けてくれえ。その代わり、田んぼの水が掃いちゅうよう存とこは絶対せんけいに、ほんで明日はどうでも二のけんかに勝た存たら、ナマズにほしてもか存らんけいに、ほんで、助けてくれえ」ちゅうて、田に

水もやるちゅうとこが、じえらいえの岩右衛門さんけいしかつて存あ、「ほん存らん、どうして助太刀する」ちゅうたら存あ、「何もいってもういっでもよいに、ほんでドデンドデンド音がしたと、もうけんかしてさかきに、「しっかりせえ、大クモしっかりせえ、二に岩右衛門が控えてるぞ」と、かち口いってもうちゅうたらよいに、ほんでけいしてくれえ」いって、「ほん存、ちゅうていってやるさかい」といって存あ。そして、「自分とこの田へ行つ井手やけい、ほんで岩右衛門さん、明日の晩上、丑の初(午前二時ごろ)に来てくれえ」「ほん存らん行くさかい」話して頼んで戻つて、さあ、岩右衛門さん明るう日仕事も何にも手につかへんやけい、今夜行かん存んやけい、ほえから晩に存あ、ふうんじつたら(寝存いじつたら)丑の初時分に存あ、じえらい音がして、水がドンドン、ドンドン音がして、バジャバジャバジャバ戦争が始まる、たん。ナマズとクモの大けんかが始まる、存あ。ほいから怖いやけい行か存しや存い、後の三三右衛門もんじゃけい、ナマズの方は勝つてもうとも、ずっと下の方やけい、自分とこに關係存いやけい、クモに負けてもうたんでは、自分とこの田へ水が二んもんやで、二へ、さあ助太刀に行つて、せえから、怖うてか存れんやけい、いっばい声で、家の中運れうて、戸を叩いて存あ、「二に岩右衛門控えてあるぞ、しっかりせえ」といって、さあ声の助太刀したんやもう存、岩右衛門さん。さあそんなして、ドデンドデンド(二、そして終つて、たんが夜が明けた、存あ、けんかが終つて、ほしたら、大生存大生存ナマズが、じえん腹あ庭いで深いとこに居らんて。ほいで、その井手をせいで、千バツの年でも、そのクモのつかい、岩右衛門さん一代は、じつからや知らんが、岩右衛門さんの田にけい水があつていって存あ。

ちゅうて話。そんなけい。

語り手… 磯まつ 京都府船井郡和知町大迫 球摩者… 稲田浩二 京都女子大教授

毎日新聞 1976年5月30日

日曜くらぶ 51 (246-247)

(前ページよりつづき)

不気味な刀モとすんぐりむ、りのナマズのパンカと聞いでも、想像するのは難しい。たに、バツバツと音を立て争う闘いが、すさまじいものであったことは間違いない。この庄が死かをかけた闘う水の主の争いのすさまじさは、川がえれば、水を求める人々の争いであり、水なくしては住せられない人々の死活問題であったことによる。

刀モは「田んぼの水が干ちゅうようになるとは絶対せん」と岩右衛門に助太刀の条件を出している。兎うしさにふるえながら、二一番、声の助太刀にふんぞりも、自分の田に水を引きたらめびあ。岩右衛門が兎い男でなく、おどおどとふるえる声で「うう」ところは、この暗闘争闘(ん)を明るくしている。ナマスに勝った後、刀モは約束どおり千バツの耳でも岩右衛門の田に水を入れる。これは、足に糸を巻きつけて人間を水中に引き込もうとする「賢淵」の話でもわかるように、刀モが水を司る神であったことによる。

東北の仙台では、刀モとウナギの話になっている。刀モがウナギを攻め、ウナギは源兵衛に声の助太刀を頼みに行く。ところが、源兵衛は約束を守らな。ウナギは敗れ、源兵衛も気が狂って死んでしまふ — となっている。こうみると、刀モのけんかの話は伝説や民間話に近い昔話といえる。

(大島 広志)



刀モとナマズのけんかは

方言そのまま「読みにくいかも知れませんが」

和歌山 京都 大阪 奈良 兵庫 徳島 香取 茨城 千葉 埼玉 群馬 栃木 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 茨城 香取 徳島 兵庫 奈良 京都 和歌山



(紹介者: 熊田憲一)

KISHIDAIA No. 41

原稿急募

11月末日までのつくり

先日、談話会の中で比較的初心者の部類にはいると思われる人産だけの会、土日会というものをつくり、菅嶋先生のお宅で第1回集会を開きました。その時、私目を持つて参りました新聞記事を菅嶋先生におみせいたしましたところ、大変不思議がられておりました。それは...

東京新聞 昭和40年7月10日(木曜日)
(9)面 話のスナック というところ

...ネズミ捕り、クモ...

ネコがネズミを捕るのは昔り前のことだが、これはクモがネズミを捕った話 —

七月初め、大分県宇佐市川部地区、市職員Iさん(28)宅で、部屋のスミに置いたミシンの横に大きなクモの巣。よく見ると、巣にかかっているのはネズミ。長い足をからませてノドもヒにクモが食いついていた。クモは、胴の直径が1.5センチ、足を広げると10センチもある大クモ。近くのクモ研究家によると「それは足高クモでしょう。ネズミを捕ったのは日本で初めてでしょう」ということだ(西日本新聞)

この新聞記事を読まれた菅嶋先生の御意見は「こういう話を聞くのは初めてだ。クモ研究家なら足高クモが巣を造らないのは、知っているはずだ。」とのことでした。なお、こういう記事はめずらしいから談話会通信に出しておきたいと菅嶋先生に言われた。ペンを送らせました。

貞元己良大のお手紙より

いそぎ談話会のほしきもの?と?

KISHIDAIA No. 41の原稿

KISHIDAIA No. 41の発行費

KISHIDAIAを広くつくりたい

KISHIDAIAを普及してつくりたい

KISHIDAIAの記事はつくりたい

(その他、1972年7月までとことつくりたい)

10月3日全く突然にドイツへ行かされた小野展嗣氏より、便りがありました。支障のない部分を断絶して掲載します。

「前略 — 10月3日に日本をたち、モスクワ経由で無事フランクフルト空港に着きました。モスクワは気温4°Cととて薄っぺらく寒く外に出たときはふるえ上りましたが、ここメインツは、日本とはほぼ同じぐらいの気候です。ただ緯度からは、樺太と同じぐらいでしょうが。着いたから4、5日は恭子のドイツ語の先生から紹介してもらったドイツ人の家に居続けし、その人件 Prof. Martens に助けをもらって家まがしや入学の手続やらに走り回りました。ようやく郊外（といえどバスで町中まで15分）のアパートの一室を借りて住み始めました。緑が多く良い環境のところにあります。物価も日本とはほとんど同様か、少し高いくらいですが、やはり不自由はありません。食べ物が違ふのと、水が硬いので、飲めないのでお断りしています。大学のほうも、1学期間ドイツ語を習うことになりました。こちらの授業は講義と、セミナーと実習の3つに分れています。国際色豊かです。日本人もけっこう多いようです。メインツの町は小じんまりとまとまった感じの町です（しかし中心部は銀座並み）。馬車からバスまで5分も行かないところにメインツ大学（Johannes Gutenberg Universität）があります。大学は比較的広い総合大学で自然科学から文学まで様々な学科があります。生物の關係からは植物学科が大まか、り、は、な植物園をわけています。動物学科はたいてい小まか、きわまり五臓六腑のビルにかまされた中にボツンと小さく建てられています。おそらく不造の建物はこれだけではないでしょう。こちらの町も

は、また採集していませんが、情報たくさんあります。家の中を何だかよくわからないハエトリグモが歩きまわっています。いずれ、採集して、お名前をわかってお知らせします。

とりいそぎ、教員報告まで。」

小野展嗣氏の住所は次の通りです。

M2-LERCHENBERG,
RUBENSALLEE 42,
65 MAINZ,
BUNDESREPUBLIK
DEUTSCHLAND

自然保護・自然教育・自然保護教育について、理論的にも、実践的にも着実に活動している「自然観察会」というのがあります。そのパンフレット No. 42 (1976. 10. 3) に、佐藤幸子氏が「70の巻」を連載しはじめられました。その一は下りとアトリグモです。約1頁にわたる内容です。大意、たのしく読んでおいていただきました。実際は観察されたことであるので、興味深い内容です。

2-3ページのような雑誌会通信への記事をお勧めします。オリエント体裁が書まじつてきて下ると大変、助かります。

厚紙は、もし、書まじつてくるとしたら、70の巻の「コトコトの目録 1mm目、上巻紙、70g/m²、50枚、ホ-19」というのは、70のインクを使つて下れば結構です。紙面の大きさは、9cm x 21cm x 30cm に入れれば、その子、印刷機にかかけられます。

熊田氏曰、このおらな、
 インクの壺と箱をもらいまし
 たので紹介します。
 Black Indian Inkの
 デザインは、このおらなと
 他の色のものは、もっとかわ
 いらしかたなり、きれいだ
 たりするようである。



INKS MAY BE MIXED WITH
 EACH OTHER OR THINNED
 WITH DISTILLED WATER.
 ALL EXCEPT WHITE ARE
 SUITABLE FOR USE IN A
 STYLUS PEN

BLACK INDIAN INK
 951

WINSOR & NEWTON
 INK

CONTAINS SHELLAC
 WASH PENS & BRUSHES
 IMMEDIATELY AFTER USE
 KEEP FROM FREEZING
 1/2 FL OZ 14 CC


BLACK INDIAN INK
 951


組み立て方:


- ① コーペをとり、(7)の
 と、うらしかためはなるか
 ら)。
- ② リンカフをきり取る。
- ③ 角がとれ(箱はなるか
 に)、おろす。
- ④ ノリシロはノリをつけ
 (とれぬ)リナーを
 はりつける。
- ⑤ 底とフタをくっつける。

もっとかたむくには、(コーペをとる方法)を、中味入りのきま、つくるこ
 とである。

「KISHIDAIA」の□の中には文字を入れたらいい。□の中をトナリ順に動かして、一つの言葉を作して下さい。ヒントは1回1つあります。

1.  健康が活発な
こと。

2.  Arachnida

3.  見た目が
つばねさう
ちや。

4.  いっぱい
いること。

答のわかる方は、答のこに参加
ことが出来ます。
わからな方は、KISHIDAIAの原稿を
書くほうに努力して下さい。宜しく。

ちよと遊んでみました。夫礼。
とほい。全国にいる会員の方が本会
へ参加されることといは、KISHIDAIA
への投稿くらゐものと思ひます。また、
せかく、No.40までつづいた会誌を先
組にはおさせたくないので。

私個人としては、KISHIDAIAを通じて、
会員相互に Discuss してあげて理
想的と存じています。そういう意味では、
以前の KISHIDAIA の内容について、
再検討された感想などが掲載
されるとおぼやかと思ひています。句論
Acta, A Typus などはあるしといつた
のは、() 投稿することの意味あるの
と思ひます。結局は、早く考え直しを
して、行つくとこは同じ場所
というところを、どの様な内容
のものを、おさすといふことには
どうなるか? して、若して若くは、
Discussion の場というところ
の整理・整理・整理して、
おさすと思ひます。いかがでしょうか?

新編集委員は、Conclusion の
ところまで、() のところまで、発行回数
は、あることと存じています。発行回数
同じにして、その方が、会員の ()
おぼやかと思ひます。

。新編集委員は、年々には不便か
と思ひますので、原稿の情者、因版
の体裁、など、おさすこと、努力
してあげて下さい。投稿者の方へ
おぼやかと思ひます。

。会費外の消息で、恐縮ですが、
種利利夫先生は、今年度の歌山県
の文化功勞者に選らば () れ、
受賞のため、11月初め、郷里へおさ
れられた。なお先生は、お元氣で、研究
されておられます。

。八木信先生が今年60才になられ
たのは、もうお存じの方多いことと思ひ
ます。そのおぼやか、選層記念号が出版され
予定です。

。オスカの地上絵の7色の絵五弁に入れ
した(雑誌での)2次図(1月発行予定)に
掲載して、おぼやかと思ひます。

。12月には、3次合同例会がありますので、
また「おぼやか、おぼやか」とい
うのは、早くおぼやか、皆林口は健康で
おぼやかと思ひます。

東京歌珠談話会

191 東京都目黒区青丘1-18-2
聖徳 泉 子
phone: 0425-81-7128

会誌 KISHIDAIA No.41 原稿募集
会費 '76年 1000円, '77年 1500円
KISHIDAIA No.41 入付可能。
(2000円) (送料別)

(連絡先: 聖徳 泉 子)

1975.11.6

東京蹴球談話会

入会

吉川伊智郎氏 226 横浜市緑区寺山町570
(氏は10月10日八柱聖園の観望採集会へ、貞元氏と一緒に参加されました。)

内田善晴氏 959-02 西蒲原郡吉田町大字栗生津129
(氏は東亜蹴球学会の会員でもあります。)

訂正

通信No.14. 1p. の八柱聖園・観望採集会の参加者には誤植がありました。以下の様には訂正願います。

吉田 → 吉川伊智郎
貞元 → 貞元己良

上記お二方は、お詫を申し上げます。

お知らせ

三会合同例会の日取りが決まりました。

12月26日(日) 目黒区立大橋区民会会館
いつもの通り10時より開始する予定にしております。
昼食は各自で心配下さい。
借入料が倍になりましたので、会費少々高くなることと存じます。
今回の世話人は、多足類懇談会の高野光男氏です。

その他

小野居嗣氏からは、お2信、高橋米夫氏からは、観望採集会参加の感想が寄せられています。来年1号(No.15)にて紹介します。KISHIDAIA. 通信共は、情報誌、まっていますので、よろしくご協力下さい。
(以上、松平)